

原価のしくみとコストダウンの実践法

◎原価のしくみを理解せずして、利益の確保・増大はありません

原材料価格の高騰、人手不足に伴う人件費の上昇、地政学的リスクなど、企業環境は変化が激しく、不確実性が増えています。このような中、利益を確実に確保し、かつ利益率を高めていくには、原価を管理する部門のみならず、社員一人ひとりが原価の仕組みを正しく理解し、常に原価を意識した行動をとることが必要です。

◎原価は、あらゆる業種、部門に必要な知識です

原価の仕組みを理解することは、個々人の業務上のコスト意識を高め、結果として『利益を生み出す組織づくり』に直結します。そのため、製造業のみならずサービス業を含めたあらゆる業種、あらゆる部門においても必要な知識です。

◎原価の基本について、演習を交えてわかりやすく解説します

本セミナーは、初めて原価について学ぶ方にも理解がしやすいよう、基本からわかりやすく、実務に即した演習を豊富にまじえながら進めてまいります。



日 時 2026年11月25日(水) 10:00~17:00

会 場 九州生産性本部 セミナー室 福岡市中央区渡辺通2-1-8 2電気ビル共創館6階

講 師 (株)ME マネジメントサービス 代表取締役 添 田 英 敬 氏
マネジメントコンサルタント・技術士(経営工学)

参加対象 **製造・技術部門の方**
原価管理・経理・営業部門の方
業種・部門にかかわらず原価について関心をお持ちの方

参加費 (お1人につき)

九州生産性本部会員企業	29,700 円 (本体価格 27,000 円 消費税 2,700 円)
九州 I E 協会会員企業	29,700 円 (本体価格 27,000 円 消費税 2,700 円)
未 会 員 企 業	41,800 円 (本体価格 38,000 円 消費税 3,800 円)

申込方法等

- ・本セミナーは、WEBでの申込受付となります。
- ・お申込み後、参加証・請求書を「申込確定メール」にてお送りいたします。
- ・参加費は開催前日までにお振込み下さい。キャンセル料につきましては、ホームページをご参照下さい。
- ・同業の方のご参加、プログラムの転用は、ご遠慮ください。その他詳細につきましては、九州生産性本部のホームページをご参照下さい。

主催 公益財団法人九州生産性本部
後援 九州インダストリアル・エンジニアリング協会

第1章 原価のしくみ

- 1-1 利益はどのように計算されているか
演習：製造原価報告書作成問題
- 1-2 費用・原価とは何か
- 1-3 直接費・間接費とは何か
- 1-4 変動費・固定費とは何か

第2章 標準・見積原価計算の進め方

- 2-1 事後と事前に見る原価
- 2-2 材料費の見積
- 2-3 加工単価（加工費レート）の見積
- 2-4 加工時間の見積
- 2-5 製品別・工程別原価計算例
演習：見積原価計算問題
演習：価格決定問題

第3章 原価計算から原価管理へ

- 3-1 誰がコストを下げるのか。
演習：製品別・部門別原価計算
- 3-2 何をコストダウンするか。
- 3-3 どれくらいコストが下がるか。
演習：ABC・PPM分析問題

第4章 原価計算結果を経営に役立てる

- 4-1 損益分岐点を計算してみる
演習：損益分岐点問題
- 4-2 利益を増やす5つの方法がある
- 4-3 赤字受注しても利益が出る
演習：意思決定問題

－原価に関する基礎的な用語を理解しよう－

原価が分からずに、利益は判らない
製造原価報告書から何が見える？
費用と原価は何が違う？
直間から材料費と加工費に分ける
直接労務費は変動費か固定費か？

－製品・工程別の原価を算定する－

事後より事前に原価を知ることが大事
スクラップが出る材料を見積もるには？
変動費・固定費レート設定が必須
製品別・工程別の時間を見積もる
実務ではどのように原価計算するのか
材料消費量・時間見積が出来れば簡単
赤字受注とは何利益が赤か？

－技術の原価企画と製造の標準原価管理－

人によりコストダウンの役割が違う
管理の主体は「人」である
人別にコストダウン課題を明確にする
あるべき姿の追求でCD余地が見える
人別に効果の大きいCDテーマを選ぶ

－損益を分ける分岐点がある－

固定費を限界利益で回収する点
損益分岐点分析をどう使うか？
利益の出る製品ミックスが大事
値引き要求に応じるか？
外注した方が安いのか？

やっぱり経営は「利益が出るかどうか」が事前に判ることから!! と納得(某受講者)

※当日は電卓をご持参ください

講師プロフィール

株式会社 ME マネジメントサービス
代表取締役 添田 英敬（そえだ ひでのり）氏
マネジメントコンサルタント・技術士（経営工学）



【講師プロフィール】

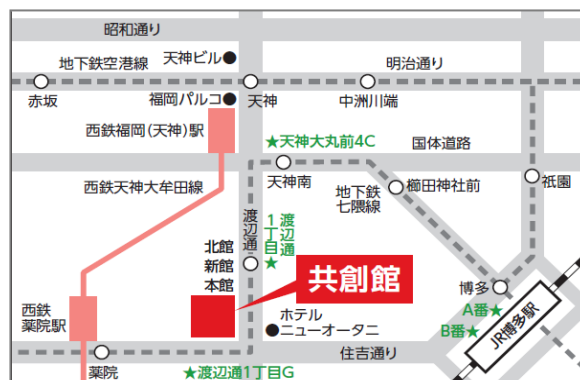
独立系システムインテグレーターにてSEを経験後、会計事務所勤務。

その後、日本インダストリアル・エンジニアリング協会、(公財)日本生産性本部・コンサルティング部にて経験を積む。開発・設計の源流から製造現場にいたるまで、原価管理・原価見積、生産・物流管理システムの立案・構築、さらにはVE・IE・品質工学を融合させた総合的なコストマネジメントとコストダウン（業績改革）を強みとする。

近年は、現場の自動化・デジタル化・スマート化といった最新技術を取り入れた仕組みづくりから、システム導入支援、成果を創出する運用支援までをワンストップで行う。実務に精通したコンサルタントとして、企業規模を問わず国内外で精力的に活動を展開している。

共著に『既存工場、製造現場への生成AI／AI導入と活用の仕方』技術情報協会がある。

会場のご案内



(問合せ先) 九州生産性本部内 担当 安松 [No.270]

福岡市中央区渡辺通 2-1-8 2 電気ビル共創館 6 階

TEL 092-771-6481 <https://qpc.or.jp>

本案内は会員企業のほか、一般の企業にもお送りしております。今後、このような経営・教育等の講座案内が一切不要な場合は、下記の担当者までご連絡ください。